

平成26年度

中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会

第1回 人工島環境整備専門部会【議事概要】

日時：平成26年10月24日（金）

午後2時58分～午後5時06分

場所：沖縄市福祉文化プラザ交流ホール

#### 【人工島環境整備専門部会の再開について（資料1）】

○人工島環境整備専門部会の再開について報告した。なお、資料1に対しては、以下のコメントがあった。

- ・野鳥園のエリアだけでなく、人工海浜(生物・学習エリア)も一体として考えてほしい。
- 事務局としても、そのように考えている。

#### 【計画地及び周辺地域の状況（資料2）】

○計画地及び周辺地域の状況について報告した。なお、資料2に対しては、以下のコメントがあった。

- ・沖縄市は自然資源に恵まれている。もっと利用していくべきである。子供達が自然体験学習できる機会が増えるよう、教育委員会とも連携していくべきである。
  - ・子供達や地域住民が利用しやすい施設整備を行ってほしい。
- 海岸清掃や自然観察会などを沖縄市としては実施している。沖縄総合事務局でも人工島内での自然観察会を実施している。沖縄市としては、残される自然、創出される自然を、子供達と一緒に大切に育てていきたいと考えている。

#### 【これまでの検討内容（資料3）、先進地事例調査結果（参考資料1）】

○これまでの検討内容、先進地事例調査結果について報告した。なお、資料3、参考資料1に対しては、以下のコメントがあった。

- ・隣接するビーチでのマリナクティビティーが野鳥の生息に影響を与えるかもしれない。野鳥園周辺も含めた総合的な検討が必要である。
  - ・過去に検討されている海岸域に植栽する樹種では、鳥が利用できる樹種がない。木の実を付ける樹種（例えばトベラなど）も選定していく必要がある。
  - ・人工海浜の植生については検討されているが、後背の野鳥園への連続性が感じられない。
- ご指摘を踏まえ、今後検討していく。
- ・森ヶ崎水再生センターの屋上でコアジサシの繁殖場を造成していた。あのような事例は参考になるのではないか。

#### 【野鳥園、人工海浜の整備に関する課題と対応（資料4）】

○事務局が考える課題、課題に対する対応(案)については概ね了承された。なお、資料4に対しては、以下のコメントがあった。

- ・野鳥園全体をフィールドミュージアムとして活用できないか。沖縄市には郷土博物館があるが、自然史系の博物館がないので、野鳥園にその機能を持たせればよいのではないか。一方で、野鳥園を管理し、野鳥について解説が出来る学芸員等の人材育成も欠かせない。

→沖縄市としては、今後、調整・検討していきたい考えである。

→ソフト対応は、「これまでの環境調査結果等のデータベース化、一般の方との情報共有化について」取り急ぎ検討を始める。

・野鳥園だけでなく、人工島内の街路樹、施設等とも連携して、人工島全体として野鳥を誘引する仕掛けができ

ないか。どのような街路樹を選定すればよいかの基準は、県が作成した指針に示されている。

・野鳥園をコアゾーンとして、人工島全体の植栽を考えていくことが望ましい。

・人工島内に入居する民間企業に対し、緑化する樹種については、鳥類の誘引に適したものを植栽してもらうよう依頼していくことが望ましい。

→強制はできないので、あくまでお願いベースで企業に働きかけることを考えている。

・市民の声を吸い上げるのは重要である。将来の運営、維持、管理を考えた際に、市民との協働は欠かせない。

→別途、ワークショップを開催しており、その中で市民が興味ある鳥類、野鳥園で見たい鳥類などのニーズを探っていきたい。

・沖縄県総合運動公園が出来る前は、湿地帯であり、カモ類の飛来が多く見られた。カモが飛来するような環境を整備してはどうか。

・1980年代には、カモ類の他、サギ類も多くみられた。カモ類の生息場、サギ類の休息場、ねぐらとしては湿地帯が重要であり、カモ類の餌場として水田も必要になろう。コアジサシやシロチドリの繁殖場の創出も考えられる。このようにいろいろな環境が考えられるが、多様性を高めることも重要である一方、限られたスペースということもあるので、周辺の利用環境を踏まえて議論していく必要があるだろう。

・植栽については、維持管理者の連続性、長期的な維持管理が重要である。

・植栽する苗木の準備は早目に行う方が良い。入手するのに時間がかかる場合がある。

・基本方針(素案)のイメージのうち、基本方針1、3は具体的で分かり易いが、基本方針2、4は想像しにくい。次回はもう少し具体的に記載してほしい。